



ほし ひるの星

No. 270

もくじ

パハオラの言葉..... ^{ことば} 2
神様ってなに？..... ^{かみさま} 3
クイズ.....7
ちょうちょう作り..... ^{ぶこ} 8
ぬり絵..... ^え 9
みんなの写真..... ^{しやしん} 10
保護者のページ..... ^{ほごしや} 11

「おお人の子よ！

なんじ むげん くうかん はし め
汝 無限の空間を走り抜け、

こうだい てんくう よこぎ
広大なる天空を横切ろうとも、

なんじ めいれい ふくじゅう
汝 はわが命令に服従 し、

かお まえ いがい
わが顔の前にへりくだる以外に

あんそく み だ
安息は見い出せないであろう。」

バハオラ



神様ってなに？

ある金曜日の午後でした。沖縄の4人のきょうだいは学校からの帰り道で、歩きながら、とても真剣に話をしていました。家にたどり着くところで、突然リアズが声を上げて言いました。

「石で作ったものに花や線香を供えて神様のように拝むのは、おかしい！ただの石じゃないか！神様なんかじゃない！」 モナが穏やかに答えました。

「リアズ、神様が何かは誰にもわからないのよ。だから何で想像しても本当の神様ではないのよ。誰が想像しても、神様はそれを超えているのよ。」

お母さんと末っ子のアニサがベランダで4人の帰りを待っていました。4人はベランダに上がってきて、アスマがお母さんに言いました。

「自分の宗教が本当の神様を信じていると言う友だちがいるんだ。他の友だちは海や洞穴の神様など、いろんな神様を信じている沖縄の宗教が正しいと言うんだ。神様なんて人間が考え出したもので、そんなのいないと言う友だちもいるんだ。何が正しいか、こういった友だちにどう説明したらいいのかな？」

「私、アスマに言ったのよ。神様はいるけど一つだけだとバハオラは教えているでしょ。」 モナがいばって言いました。

「知ってるよ。だけど、それが正しいってことを、どう説明したらいいんだ？」アスマが聞き返しました。するとリアズが提案しました。「いい考えがある。その友だちに絵と絵描きの話で説明してみよう。そして人や景色が描かれた絵を見せて、こう言うんだ、『この絵には不思議なことが起きたんだ。じつは、地震で棚にあった白いキャンバスが床に落ちてきて、その上に絵の具が落ちて、この絵になったらしいんだ。』と言ってみるよ。きっと友だちは、『信じられん。絵の具がこぼれたぐらいで、そんな絵になるわけがないよ。』と言って笑い飛ばすはずだよ。」

「その絵、見たい！見せて！」幼いアニサがこうふんして叫びました。

「しー！だまって！アニサ。」シャラがたしなめて言いました。「今のはつくり話なんだから、そんな絵なんてないのよ。」

モナが続けました。「この世界はすごく小さい虫でも、こんな絵よりももっと複雑でしょ。それなのに人間とか、世界のいろんなすばらしいものは全部、偶然にできたものだなんて言えるのかと説明すればいいのよ。」お母さんが感心して言いました。

「驚いたわ。みんなが神様がいるというむずかしいお話をこんなに深く考えているなんて。大学の教授がするようなお話だものね。それにアブドル・バハの絵と絵描きのお話をよくおぼえていたわね。感心したわ。創られたものには創り主がいるということをアブドル・



バハが絵と絵描きにたとえてわかりやすく説明されたのよね。」

アスマが少し考えて言いました。

「これで神様がいるというのは説明できるけど、神様は何か？神様は一つなのかたくさんなのか？学校でたくさんの文化と宗教を教えられたんだけど、それぞれちがう神様なのか？神様はどうやっておれたちにつながっているのか？それが、わかんないんだよな。」

お母さんが言いました。「そうね。これはむずかしい質問ね。わかりやすく説明しなくちゃ。」少し考えて、お母さんがため息について続けました。「神様を太陽にたとえてみましょう。(これはたとえ話よ。ホントは、太陽が神様ってわけじゃないのよ)太陽は世界に光と命を与えています。木や山、川など、どんなものも、その光を映し出しているのよ。でも太陽をそのまま映し出せるのは、完璧に磨かれた鏡なのよね。」

リアズが言いました。

「なるほど、だから、人は木や川や山を見て、『これは神様だ！』って言うんだな。ただ神様をそっくり映し出しているわけじゃないんだ。」

「その通りよ。じゃ～、このたとえでいくと、完璧に磨かれた鏡というのは誰のことなのか考えてみて。」とお母さんが問いかけると、「神の顕示者！」モナ、アスマ、リアズ、シャラが一斉に答えました。

「えっ、何？だれのこと？」幼いアニサが質問しました。

「神の顕示者はね、神様から送られた偉大な先生方なのよ。モーゼ、ブッダ、キリスト、マホメットなどね。」モナが答えて言いました。

「そうね。」とお母さんが続けました。「どの宗教の人も自分たちの鏡を

見て神を知るの。だから、たくさんの違った宗教があるように見えるの。キリスト教徒は自分たちの鏡を見てイエスに神を見るし、仏教徒は鏡にブッダを見、イスラムは自分たちの鏡を見てマホメットの教えに神を見るってわけ…。彼らは皆、それぞれ自分たちの先生が正しいと言っているの…。たしかに彼らはみんな正しいのよ。」

ちょうど、そのときお父さんが車で帰ってきました。お父さんが車から降りると、子どもたちがやってきてそれまでの話を伝えました。お父さんは早速アニサをひざにのせて、みんなの話に加わりました。

「お父さんはどう思う？」アスマが聞きました

「おれたちは、どうやって神様につながるができるのか？神様はおれのことや、おれの小さい問題を心配してくれているのかな～？」

お父さんはちょっと間をおいて答えました。



「そうだな、じゃあ、神様と神の顕示者のことを、お父さんが好きな科学の電気と発電所にたとえて説明してみよう。」

お母さんがつけ加えて言いました。「電気は本当の神様ではないのよ。お母さんが説明したときは太陽にたとえたでしょ。それと同じね。」

お父さんがうなづいて、ほほ笑みながら続けました。「電気はどこにでもあるんだ。それはすべての原子のなかにあるんだけど、そのままじゃ使えない。それで発電所に集められているんだ。世界中に大きな発電所があって、そこで集められた電気が各家庭や工場などに送られて人々が使えるようになってきているんだ。電気を使うためには発電所を通さなければ、この家にも電灯を点けることはできないんだ。同じように神の顕示者を通さなければ神様とつながることはできないってことだ。お祈りをしたり、よ〜く考えたりするとき神様とつながるんだよ。アブドル・バハは、神の顕示者を通さないで神様につながるものとする者は、暗い土牢にいて太陽の陽ざしのすばらしさを想像しようとする人のようなもの、と説明しておられるよ。」

お母さんが続けました。「それは暗いところにいて、目をつぶったままで太陽の光と暖かさを感じようとしているみたい。それじゃあホントに光や暖かさを知ることはいわゆるね。」

お父さんがさらに続けました。「それに、ランプはまわりを明るくするために、電気とつながって明かりを灯すだろ。みんなも、自分がもうかるとか言うんじゃないで、まわりの人の役に立つために、神様とつながって、神様の教えに従うようにするんだよ。そうすれば、世の中が明るくなるだろう。」

お母さんがつけ加えました。「神様のことを考えるとき、忘れてならない大切なことがもうひとつあるわね。それは、神様はいつの時代にも、その時に人間は何を知ればいいのか、どうしたらいいのかを、神の顕示者を通して教えておられるということよ。それで人間は成長して、もっとすばらしい文明を作るのよ。。。」アニサがお母さんのそでをつかんで聞きました。「ぶんめいってなに？」

お母さんは、「文明は神様の教えで、人間が動物のようなものから天使のようになることな





の。」と答えて、説明を続けました。「人間にいろいろ教えるために新しい先生、新しい神の顕示者が必要なのね。だから、その時代ごとにモーゼ、ブッダ、キリスト、マホメットと現れて、今はバブとバハオラが必要になっているのよ。」

シャラがこうふんして言いました。「だからバハオラは、今、世界中の人々が平和に住む世界文明をどうやって作るか教えているのよね。」

「そして、みんながしずかにね！」とアニサがとび上がって叫んだので、みんなは驚いてアニサを見ました。

「母さんがいつもおれたちに、『仲良くして！しずかに！』って言うからだよ。」リアズがお母さんのものまねをして言いました。それでみんなは大笑いしました。

お母さんが微笑みながら続けました。「シャラの言った通りよ。バハオラはこのすばらしい時代に神様から送られた偉大な先生なの。世界の人々が仲良くするにはどうしたらいいか教えておられるわ。」

リアズが誇らしげに言いました。「おれのこの T シャツにあるだろ、『世界は一つ、人も一つ！』ってさ。」

みんなが手をたたいてくり返しました。「世界は一つ、人も一つ！」

モナが言いました。「それでアスマ、学校で友だちと神様のことを話すとき、どう説明したらいいか、もう分かったでしょ。」

「待って！神様は私たちの問題全部を気にかけてくれているのかっていうアスマの質問にはどう答えるの。」とシャラが言いました。

お母さんが答えました。「シャラ、母さんが母親として、いつもみんなの大きな問題も小さな問題も、全部気にかけてるって知ってるでしょ。神様（神の顕示者）はどんな親よりも誰よりもみんなを愛しているの。私たちはどのように愛すか神様から習っているんだものね。神様の愛は誰よりも深いよ。その愛に私たちが気づかなくても、いつも私たちが気にかけて手伝ってくれるの。」

アスマが言いました。「ようし！大分わかってきたぞ。これまでのアイデアが、まだ頭の中でグルグル回っているけど、整理してみるよ。」

お母さんがほほ笑んで、「めい想するということね。いい考えだわ。みんなそうするといいわね。そのとき、もっと神様のことがわかるようお祈りをするといいわね。」と言いました

「それじゃ、みんなお家に入りましょう。夕食の準備をみんなで行ってね？」

みんなは「おっけー！」と気持ちよく答えながら立ち上がり、学習道具を片づけました。おしゃべりと笑い声が家の中まで続きました。



クイズ

1. お話の始めで、4人のきょうだいは歩きながら何をしていましたか？

2. 4人の帰りをベランダで待っていたのは誰ですか？

3. 自分は自分を作るかどうかを説明すると何がわかるとモナは言いましたか？

4. アブドル・バハは、神様がいるということを何にたとえて説明されましたか？

5. 神様と神の顕示者を、お母さんは何と何にたとえて説明しましたか？

6. 完璧に磨かれた鏡とは誰のことですか？

7. 車で帰ってきて家族の話に加わったのは誰ですか？

8. お父さんは、神様と神の顕示者を何と何にたとえて説明しましたか？

9. 最も新しい神の顕示者は誰ですか？

10. お母さんは神様の愛のことをシャラにどう説明しましたか？

いくつ答えられましたか？ 答えは保護者のページにあります。



折り紙のちょうちょう

材料:

折り紙 ふつうの四分の一位の大きさ

はさみ

両面テープ

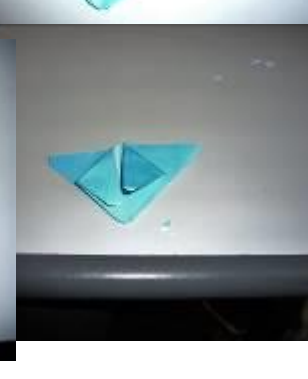
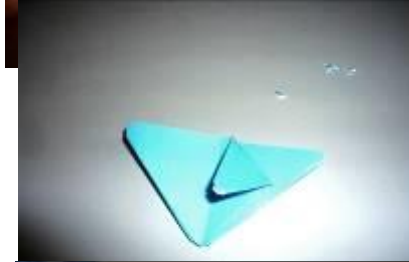
色模造紙

色えんぴつ、またはクレヨン

ぎらぎらのり

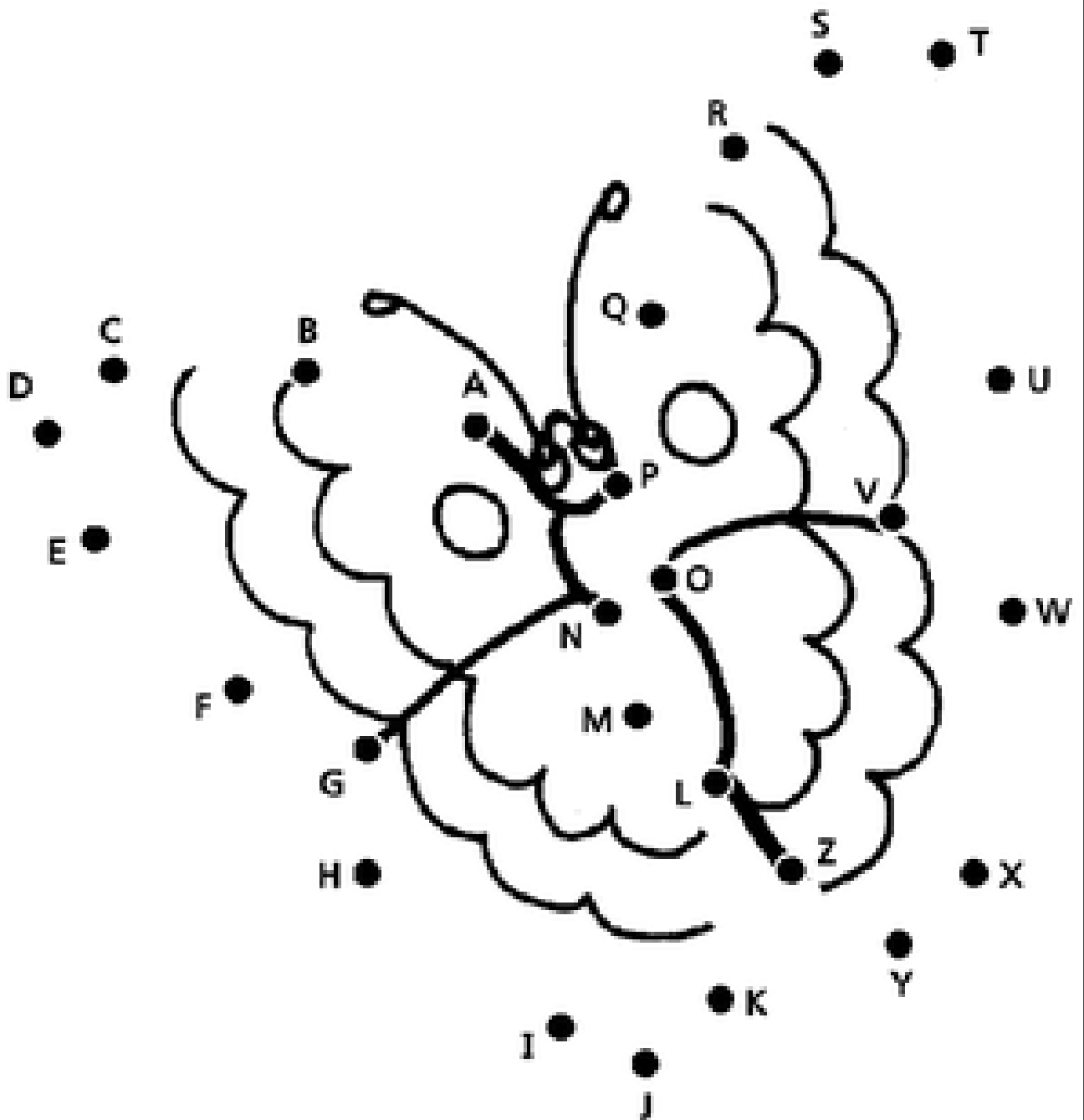
作り方

- 折り紙を二つの対角線のそれぞれに沿って折る
 - 開いて元に戻す
 - 二つの対角線が重なるようにして折ると、二等辺三角形が二つ重なってできる
 - 三角形の底辺の両端の角を重ねて折る
 - 重なった角のとんがりを切り取る 羽の角になる
 - 開いて元の上下二つ重なった三角形に戻す
 - 上の三角形の底辺両端の角を頂点に重ねるようにして折る
下の三角形を折り曲げて、真ん中辺をへこませた底辺に頂点を重ねる
 - 両面テープで頂点を底辺にくっつける
- ちょうちょうらしく、羽の部分を引き出す
- 模造紙に花園を描く
 - 両面テープでちょうちょうをいくつか花園にくっつける
 - でき上がりの絵に、ぎらぎらのりでアクセントをつける



ぬり絵

A から Z までの点をつなげていくと、出てきたのは何かな？
色も付けよう。





保護者のページ

神様を知ることについては、次にあげた引用文で確かめてみるとよいでしょう。これをきっかけに、神様のことをもっと知るために御家族やお友達とも話し合ってみませんか。

神の世は無数にあり、その範囲は無限であるということを知れ。 バハオラ

神の創造はこの世界以外の多くの世界に及び、地上の創造物以外の創造物を包含する。

バハオラ

神は意のままに「存在せよ」という命令の一声で創造し、そして、ものは存在する。

バブ

唯一真実の神が御自身のために欲するものは何もない。…
御言葉の領土で飛ぶ鳥は、絶え間なく次のように呼びかけている。

「我は万物を汝のために望んだ。そして、汝自身をも汝のために望んだ。」 バハオラ

人間はみな、常に進歩する文明（魂）を前進させるために創造された。

バハオラ

神が人類に預言者を送る目的は二つある。第一の目的は、人の子らを無知の暗黒より開放し、真の理解の光に導くことである。第二の目的は、人類の平和と平安を保障し、それらが確立されるためのあらゆる手段を提供することである。 バハオラ

顕示者は常に神の代表者であり、代弁者である。まことに、顕示者は神の最も優れた称号の曙であり、神の最も崇高な属性の黎明の場である。 バハオラ

万物の起源に在す神を知り、神に到達するためには、真理の太陽から由来したこれらの光る実在（顕示者）を認め、そのもの達に到達する以外に道はない。 バハオラ

世界の人々はみな一つの天の源から靈感を受け、みな一つの神の民である。このことに何らの疑う余地はない。 バハオラ

クイズの答

1. 真剣に話していた
2. お母さんと末っ子のアニサ
3. 神様がいる
4. 絵と絵描き
5. 太陽と完ぺきに磨かれた鏡
6. 神の顕示者
7. お父さん
8. 電気と発電所
9. バハオラ
10. 神様の愛は誰よりも深い



#270

2017年6月 スル B E 274

3 か月毎に発行されている「ひるの星」は白黒印刷で日本全国精神行政会
(nationaloffice@bahaijp.org) に注文でき、また以下のリンクにアクセスすると
カラー印刷することができます。 <http://hirunohoshi.weebly.com/>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 F A X：03-3204-0773

ひるの星委員会：グレン・ロウ、バウデンカービー真己、平原静志、
平原ルアナ

お話と工作：平原ルアナ

ぬり絵：www.connectthedots101.com

写真：ウィキペディア、平原ルアナ、尊田イヴァ、グレン・ロウ

さし絵：平本かおり、スティーヴ・パスカル、グレン・ロウ、田端みゆき、石川こうた(3年生)、
ダリル・マード

テクニカルアドバイザー：グレン・ロウ

編集：平原ルアナ

和訳：平原静志

和訳校正：岩倉宣子 監修：野口メアリー